

科目名		歴史総合		必履修	使用教材	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社） 歴史総合用語解説（山川出版社）
学年 学級	1 学年 普通科・創造理数科	単位数	2	教科 担当	津野田 興一	

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期 中間検査まで	第 1 章 結びつく世界と日本の開国 18 世紀の東アジアにおける社会と経済 貿易が結んだ世界と日本 産業革命 中国の開港と日本の開国 第 2 章 国民国家とナショナリズム 市民革命 国民国家とナショナリズム	第 1 章 アジア諸国と欧米諸国の関係の変容のなかで、伝統と文化、交流について主体的に学習に取り組む。 第 2 章 国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う
1 学期 期末検査まで	明治維新 日本の産業革命 帝国主義 変容する東アジアの国際秩序 日露戦争と東アジアの変動 近代化と現代的な諸課題	第 2 章 国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う
2 学期 中間検査まで	第 3 章 総力戦と社会運動 3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ～第 4 章 経済危機と第二次世界大戦 3 日中戦争への道	第 3 章 第一次世界大戦後の国際協調体制の成立と限界について理解を深め、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う 第 4 章 第二次世界大戦の惨禍や大戦下の人々の生活を通して、生命を尊ぶ態度を養う。
2 学期 期末検査まで	第 4 章 経済危機と第二次世界大戦 4 第二次世界大戦の展開 ～第 5 章 冷戦と世界経済 2 東西両陣営と 1960 年代の社会	第 5 章 冷戦下の紛争地域と脱植民地化や地域連携について学び、他国を尊重し、国際社会の平和について考察できる。
学年末 検査まで	第 5 章 冷戦と世界経済 3 軍拡競争から緊張緩和へ ～第 6 章 世界秩序の変容と日本 10 現代と私たち	第 6 章 地域紛争が多発する現代における国際連合の役割と安全保障の問題などの事例を通して、正義と責任、および国際平和について考察できる。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

普通科・創造理数 歴史総合のルーブリック						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力	
評価規準			近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論し応用できる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付け、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動をいづもとることができる。	
B	立高生として求める標準	レベル3	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付け、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動をししばしとることができる。	
		レベル2	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている力を概ね身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。	
C	立高生として初歩的段階	レベル1	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている力を少し身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力し、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。	
評価方法			ペーパーテスト・5分間発表・歴史総合新聞・授業での討論内容	ペーパーテスト・5分間発表・歴史総合新聞・授業での討論内容	ペーパーテスト・5分間発表・歴史総合新聞・授業での討論内容	
観点別評価			レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	

科目名	地理総合		必修	使用教材	新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新地理資料 COMPLETE2025（帝国書院）
学年 学級	1 年 A, B, C, D, E, F, G	単位数	2	教科 担当	長村、木内

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	第 1 部 地図でとらえる現代世界 第 1 章 地理情報とシステム 地球上の位置と時差／地図の役割と種類 第 2 章 結び付きを深める現代世界 現代世界の国家と領域／グローバル化する世界 第 2 部 国際理解と国際協力 第 1 章 生活文化の多様性と国際理解 生活文化の多様性／世界の地形と人々の生活／世界の気候と人々の生活／世界の言語・宗教と人々の生活	第 1 部 第 1 章：地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解するとともに、情報の収集、読図、まとめる技能を身に付ける。 第 2 章：世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察する。 第 2 部 第 1 章：世界の人々の生活文化について、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察する。
2 学期	歴史的背景と人々の生活／世界の産業と人々の生活 第 2 章 地球的課題と国際協力 複雑に絡み合う地球的課題 地球環境問題／資源・エネルギー問題／人口問題／食料問題／都市・居住問題	第 2 章：世界各地で見られる環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市問題などの地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察するとともに、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
3 学期	第 3 部 持続可能な地域づくりと私たち 第 1 章 自然環境と防災 日本の自然環境／地震・津波と防災／火山災害と防災／気象災害と防災／自然災害への備え 第 2 章 生活圏の調査と地域の展望 生活圏の調査と地域の展望	第 3 部 第 1 章：自然環境と防災について、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 第 2 章：生活圏の調査と地域の展望について、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

・授業に集中して取り組み、積極的な発言を求める。現代世界の出来事を地理的視点から自らの問題として考える態度を養う。年 4 回の定期テストの他に、小テスト等を適宜行う。地理的課題についての調査・グループワーク・討論等を行う。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力	
評価規準			地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論し応用することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。	
B	立高生として求める標準	レベル3	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。	
		レベル2	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を概ね身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。	
C	立高生として初歩的段階	レベル1	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を若干身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力している。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。	
評価方法			・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察	・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察	・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察	
観点別評価			レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	

科目名	日本史探究		選択必修	使用教材	日本史探究（東京書籍）
学年 学級	2年A～G組	単位数	2	教科 担当	大野 新一

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査まで	オリエンテーション 旧石器時代の日本 弥生文化と小国家の形成 大和王権と古墳文化 飛鳥の朝廷と文化 律令国家の形成と白鳳文化	日本列島における人類の生活のはじまりについて考察する。その際、自ら問いを表現し、史料に基づいて考察することで、主体的に歴史を探究する態度を育む。
	期末考査まで	平城京と天平文化 平安遷都と唐風文化 貴族社会と摂関政治 国風文化 朝廷世界の変容 武士の政治進出	奈良時代から中世のはじまりにかけての日本列島の歴史について探究する。その際、自ら問いを表現し、史料に基づいて考察することを通して、時代の転換点について説明できるようにする。
2 学 期	中間考査まで	鎌倉幕府の誕生 執権による政治 モンゴル襲来と社会の変貌 鎌倉の仏教と文化 南北朝の動乱と室町幕府の成立 倭寇と東アジア国際交流 室町時代の社会と経済活動	鎌倉幕府の誕生から室町時代にかけての日本列島の歴史について、世界の中の日本の視点をふまえて探究する。その際、修学旅行をふまえ、琉球と日本の関係について説明できるようにするとともに、琉球・沖縄についてプレゼンテーションを行う。
	期末考査まで	自立する戦国大名 室町文化 地球的世界の形成と日本 織豊政権による全国統一 桃山文化 江戸幕府と大名・朝廷	日本の近世社会について、中世からの転換となる画期をふまえ、その特徴を表現できるようにする。その際、基本的な史料などを用いて問い（課題）を追究し、説明できるようにする。
3 学 期	学年末考査まで	近世の身分と人々の暮らし アジアのなかの幕藩体制 武断政治から文治政治へ 幕藩体制下の社会の発展 享保の改革と経済の発展 近世社会の成熟と危機の始まり	日本の近世社会の展開と動揺について、世界の中の日本の視点をふまえて考察する。その際、史料をふまえて政策の意図や人々の暮らしを読み取り、時代の特徴を説明できるようにする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

2学年では、世界の中の日本という視点をふまえて、日本列島における人類のあゆみを総合的に考察する。その際、中学校社会科歴史的分野や1学年での歴史総合をふまえ、諸資料を活用し、問いを表現することを通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力を高めることを目指す。予習を前提として授業が展開されるので、該当部分の教科書をよく読み、用語集等で確認をしておくことが求められる。主体的・対話的な態度で授業に取り組むこと。修学旅行の事前学習も適宜実施する。また、定期考査においては基礎知識の正確な理解、それをふまえた論述も出題される。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力	
評価規準			日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。	
B	立高生として求める標準	3	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。	
		2	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力がある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力がある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。	
C	立高生として初歩的段階	1	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている	
評価方法			定期テスト・振り返り学習・など	定期テストなど	定期テストなど	
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	

科目名		世界史探究		必履修 学校必履修 選択必履修	使用 教材	山川出版社（詳説世界史） 山川出版社（世界史用語集） 浜島書店（アカデミア世界史）
学年 学級	2 年 A～G 組	単位数	2	教科 担当	佐藤慎・塚原	

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	第 1 章 文明の成立と古代文明の特質 ・ 文明の誕生 ・ 古代オリエント ・ 南アジアの古代文明 ・ 中国の古代文明 ・ 南北アメリカ文明	人類の誕生と古代文明の成立と発展を、各文明圏を対比しながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末考査 まで	第 2 章 中央ユーラシアと東アジア世界 ・ 草原とオアシスの世界 ・ 秦漢帝国 ・ 中国の動乱と変容 ・ 東アジア文化圏の形成 第 3 章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・ 仏教の成立と統一国家の形成 ・ インド古典文化の形成 ・ 東南アジア世界の形成と展開	中央ユーラシア世界を中心に、遊牧世界と農耕世界の関係性の中から、アジア古代世界の形成について考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
2 学 期	中間考査 まで	第 4 章 西アジアと地中海周辺の世界形成 ・ イラン文明 ・ ギリシア人の都市国家 ・ ローマと地中海世界 ・ キリスト教の成立と発展	西アジアを含めた地中海世界の形成と展開過程について、その特徴を宗教と関連させながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末考査 まで	第 5 章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ・ アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ・ ヨーロッパ世界の形成 第 6 章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・ イスラーム教の伝播 ・ 西アジアの動向	イスラーム教の成立と発展、および世界史への影響について、キリスト教世界の成立と対比しながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
3 学 期	学年末考査 まで	第 7 章 ヨーロッパ世界の変容と展開 ・ 西ヨーロッパの封建社会と展開 ・ 東ヨーロッパ世界の展開 ・ 西ヨーロッパ世界の変容 ・ 西ヨーロッパの中世文化	中世ヨーロッパ世界の成立と展開について、東西の対立と協調という側面から考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

2 学年では、人類の誕生から古代世界の形成、そして中世への展開過程について学習する。歴史をただ覚えるのではなく、現代に繋がる過程として理解し、今日の世の中について一人ひとりが考察するきっかけになるよう授業展開していく。発問に対する応答や、討論などが評価の規準となろう。主体的・能動的な態度で授業に取り組むこと。また、定期考査においては世界史の基礎知識の正確な理解、それを踏まえた世界史の流れを適切な文章として自ら表現できるかどうかとも重要な評価規準となる。授業内で要約・振り返りを行い、探究的内容の理解を深める。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力	
評価規準			世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。	
B	立高生として求める標準	3	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。	
		2	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力がある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力がある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度がある程度身に付けている。	
C	立高生として初歩的段階	1	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている	
評価方法			定期テスト・振り返り学習・小テストなど	定期テスト 共有シート 振り返り レポートなど	振り返り ワークシート レポートなど	
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	

科目名	公共		必履修 学校必履修 選択必履修	使用 教材	公共（実教出版） 最新図説 公共（浜島書店）
学年 学級	2 年全クラス	単位数	2	教科 担当	野口英法 山田駿

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	第 1 部 公共の扉 倫理分野 第 1 章 社会を作る私たち 第 2 章 人間としてよく生きる 第 3 章 他者とともに生きる 第 4 章 民主社会の倫理	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。
	期末考査 まで	政治分野 第 5 章 民主国家における基本原理 第 2 部 よりよい社会の形成に参加する私たち 第 1 章 日本国憲法の基本的性格 第 2 章 日本の政治機構と政治参加	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。 ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。
2 学 期	中間考査 まで	経済分野 第 1 章 現代の経済社会 第 2 章 日本経済の特質と国民生活	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。
	期末考査 まで	国際分野 第 1 章 国際政治の動向と課題 第 2 章 国際経済の動向と課題	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。
3 学 期	学年末考査 まで	第 3 部 持続可能な社会づくりの主体となる 私たち	この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第 1 部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第 1 部及び第 2 部で扱った課題などへの関心を一層高める

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

毎時間他者との意見共有と振り返りを行い、知識の定着のみならず、思考力や表現力を高めることを目指します。また、政治分野、経済分野においては中学校までの既習事項も踏まえながら、授業内での議論を行います。民主社会の形成者として積極的に社会に参画する態度を養っていきましょう。特に授業内では自らの意見を述べるだけでなく、多くの人の意見を聞く機会もあると思います。他者の意見も尊重し、考える力を養っていきましょう。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力	
評価規準			公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。	
B	立高生として求める標準	3	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。	
		2	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。	
C	立高生として初歩的段階	1	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている	
評価方法			定期テスト・振り返り学習	定期テスト 共有シート 振り返り 中間課題 レポート	振り返り ワークシート 中間課題	
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	

科目名		日本史探究演習 α		必修 学校必修 選択必修	使用教材 日本史探究（東京書籍） 新詳述日本史史料集成（実教出版） 新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）
学年 学級	3 年 必選	単位数	4	教科 担当	武藤正人

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	1 享保の改革と経済の発展 2 近世社会の成熟と危機の始まり 3 幕藩体制の立て直し 4 幕藩体制の動揺 5 開国と開港 6 幕府の崩壊と明治維新	近世後期の社会について、国際社会の動向との関連に留意して理解を深める。近代社会への転換点について、資料に基づいて探究する。
	期末考査 まで	1 制度改革と殖産興業政策 2 文明開化と教育制度の整備 3 東アジア世界の中の明治政府 4 政府専制への批判 5 立憲政治の成立 6 対外関係の変容と日清戦争 7 産業革命と資本主義の定着 8 教育制度の整備と新しい文化 9 日露戦争と帝国日本 10 日露戦争後の社会と政治	近代社会の展開について、世界の中の日本の観点から考察し、理解を深める。国民国家の成立、対外戦争、資本主義の定着などについて、国民生活との関わりに留意しながら資料に基づいて探究する。
2 学 期	中間考査 まで	1 都市化・重工業化と生活の変化 2 政党政治とデモクラシー 3 国際社会の中の日本 4 昭和恐慌と立憲政治の動揺 5 中国侵略と戦時体制への移行 6 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開 7 占領と日本国憲法の成立 8 冷戦の開始と経済復興 9 国際社会への復帰と対米協調	両大戦間期の日本について、世界の中の日本の観点から考察し、理解を深める。第二次世界大戦と日本について、政治・外交・経済・国民生活など多面的に探究し、現代社会とのかかわりに留意しながら資料に基づいて理解を深める。
	期末考査 まで	1 高度経済成長 2 1970 年代の国際社会と日本 3 安定成長への転換 4 激変する世界と日本 5 21 世紀の日本 6 現代日本の課題の探究	戦後の日本社会について、世界の中の日本の観点から多面的に考察するとともに、現代日本の課題について、資料に基づいて探究する。
3	学年末考査 まで	・共通テスト対策 ・論述指導 ・その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、受験対策の演習を通じて知識を確かなものとする。

学習のポイント

- ・日本史探究演習 β（3 単位）と共通科目として展開する。
- ・近現代史を中心に、歴史総合を意識しつつ、世界の中の日本の観点から多面的・多角的に考察する。
- ・さまざまな資料を活用し、資料に基づいた問いの表現、仮説の探究を行う。
- ・確認テストとして大学入試問題の演習を行う。
- ・相互採点、相互解説を行い、大学入試問題の演習を通して探究的な学びを展開する。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力	
評価規準			日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。	
B	立高生として求める標準	3	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。	
		2	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力がある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力がある程度身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。	
C	立高生として初歩的段階	1	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている	
評価方法			定期テスト 振り返り確認テストなど	定期テスト 振り返り確認テストなど	出席状況、グループワークへの取り組みなど	
観点別評価			数値で評価し、最終的にA、B、Cで記載する	数値で評価し、最終的にA、B、Cで記載する	数値で評価し、最終的にA、B、Cで記載する	

科目名	日本史探究演習β		必修 学校必修 選択必修	使用教材	日本史探究（東京書籍） 新詳述日本史史料集成（実教出版） 新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）
学年 学級	3年 必修	単位数	3	教科 担当	武藤正人

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	1 享保の改革と経済の発展 2 近世社会の成熟と危機の始まり 3 幕藩体制の立て直し 4 幕藩体制の動揺 5 開国と開港 6 幕府の崩壊と明治維新	近世後期の社会について、国際社会の動向との関連に留意して理解を深める。 近代社会への転換点について、資料に基づいて探究する。
	期末考査 まで	1 制度改革と殖産興業政策 2 文明開化と教育制度の整備 3 東アジア世界の中の明治政府 4 政府専制への批判 5 立憲政治の成立 6 対外関係の変容と日清戦争 7 産業革命と資本主義の定着 8 教育制度の整備と新しい文化 9 日露戦争と帝国日本 10 日露戦争後の社会と政治	近代社会の展開について、世界の中の日本の観点から考察し、理解を深める。 国民国家の成立、対外戦争、資本主義の定着などについて、国民生活との関わりに留意しながら資料に基づいて探究する。
2 学 期	中間考査 まで	1 都市化・重工業化と生活の変化 2 政党政治とデモクラシー 3 国際社会の中の日本 4 昭和恐慌と立憲政治の動揺 5 中国侵略と戦時体制への移行 6 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開 7 占領と日本国憲法の成立 8 冷戦の開始と経済復興 9 国際社会への復帰と対米協調	両大戦間期の日本について、世界の中の日本の観点から考察し、理解を深める。 第二次世界大戦と日本について、政治・外交・経済・国民生活など多面的に探究し、現代社会とのかかわりに留意しながら資料に基づいて理解を深める。
	期末考査 まで	1 高度経済成長 2 1970年代の国際社会と日本 3 安定成長への転換 4 激変する世界と日本 5 21世紀の日本 6 現代日本の課題の探究	戦後の日本社会について、世界の中の日本の観点から多面的に考察するとともに、現代日本の課題について、資料に基づいて探究する。
3	学年末考査 まで	・共通テスト対策 ・論述指導 ・その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、受験対策の演習を通じて知識を確実なものとする。

学習のポイント

- ・日本史探究演習α（4単位）と共通科目として展開する。
- ・近現代史を中心に、歴史総合を意識しつつ、世界の中の日本の観点から多面的・多角的に考察する。
- ・さまざまな資料を活用し、資料に基づいた問いの表現、仮説の探究を行う。
- ・確認テストとして大学入試問題の演習を行う。
- ・相互採点、相互解説を行い、大学入試問題の演習を通して探究的な学びを展開する。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力	
評価規準			日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。	
B	立高生として求める標準	3	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。	
		2	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力がある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力がある程度身に付けている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。	
C	立高生として初歩的段階	1	日本史探究で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている	
評価方法			定期テスト 振り返り確認テストなど	定期テスト 振り返り確認テストなど	出席状況、グループワークへの取り組みなど	
観点別評価			数値で評価し、最終的にA、B、Cで記載する	数値で評価し、最終的にA、B、Cで記載する	数値で評価し、最終的にA、B、Cで記載する	

科目名	世界史 α		必修 学校必修 選択必修	使用 教材	山川出版社（詳説世界史） 山川出版社（用語集） 浜島書店（アカデミア世界史） 山川出版社（一問一答） 実教出版（問題集）
学年 学級	3 年 必選	単位数	4	教科 担当	佐藤 慎

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・ 宋と契丹、西夏、金 ・ 大モンゴル帝国 大交易の時代 ・ 明とヨーロッパ諸国の海洋進出 ・ アメリカ大陸の変容	東アジアにおける「ユーラシア型国家」の展開と宋について、日本の動向も含めて理解し、大モンゴル帝国との関係について考察する。アジア・アフリカ・ヨーロッパ・アメリカの諸大陸が、歴史上はじめてつながる歴史的背景を理解して表現する。
	期末考査 まで	アジアの近世帝国 ・ オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国 ・ 清の発展 近世ヨーロッパ社会の展開 ・ ルネサンスと宗教改革 ・ 主権国家体制の成立 ・ 科学革命と啓蒙思想	アジアの近世帝国の歴史的特徴と展開過程を、中世までの歴史を踏まえて考察する。いっぽう、それとは異なる近世国家を形成したヨーロッパの社会経済的状況について、思想面に着目しながら検討し、表現する。
2 学 期	中間考査 まで	二重革命の時代 ・ 産業革命 ・ アメリカ独立革命とフランス革命 ・ ラテンアメリカの独立と課題 ヨーロッパにおける国民国家建設 ・ ウィーン体制とヨーロッパ諸国の国民国家建設 ・ アメリカ合衆国の発展と 19 世紀の欧米文化	産業革命とフランス革命という大きな変革が、ヨーロッパと世界に与えた影響について考察する。また、ラテンアメリカ社会の形成について理解すると同時に、ヨーロッパにおける国民国家形成の特徴と功罪両面を検討する。また、これらの背景に存在する科学と思想的側面について考え、表現する。
	期末考査 まで	アジア諸地域の変動 ・ 西アジア、南アジア、東南アジア、東アジアの動揺と近代化への模索 帝国主義とアジアの民族運動 ・ 第 2 次産業革命と列強の世界分割 ・ アジアの民族運動	欧米諸国の進出にともなうアジア諸地域の対応について考察する。第 2 次産業革命の進展による欧米諸国の帝国主義化と世界分割について理解する。さらに、アジアにおける民族運動の実際について検討し、表現する。
3 学 期	学年末考査 まで	・ 共通テスト対策 ・ 論述指導 ・ その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、共通テスト・二次試験のための論述対策・私大対策を実施する。

2 学年では教科書第 1 章～ 7 章について学習した。必選世界史では近世から現代の歴史を扱う。受験を念頭に置いた内容が豊富な授業を展開するが、授業では必要なことを必ずメモする習慣をつけて欲しい。また、周辺の生徒どうしの対話を通じて、世界史の授業内容を主体的に学んでいくことを期待する。能動的に世界史を学び、歴史を通じて現在の世界に目を向け、自分の頭で歴史について考え、表現できるようになろう。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	立高生として目指すべき目標	4	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	立高生として求める標準	3	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力がある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力がある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度がある程度身に付けている。
C	立高生として初歩的段階	1	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習・小テストなど	定期テスト 小論文プリントなど	定期テスト、小論文プリントなど
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する

科目名	世界史β		必修 学校必修 選択必修	使用教材	山川出版社（詳説世界史） 山川出版社（用語集） 浜島書店（アカデミア世界史） 山川出版社（一問一答） 実教出版（問題集）
学年 学級	3年 自選	単位数	3	教科 担当	佐藤 慎

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	帝国主義とアジアの民族運動 ・ 帝国主義と列強の展開 ・ 世界分割と列強対立 二つの世界大戦 ・ 第一次世界大戦とロシア革命 ・ アジア諸国の改革と民族運動	ヨーロッパを中心とした「世界」が形成されていく過程を把握するとともに、アジア・アフリカなどの動向にも注目する。第一次世界大戦が世界に与えた衝撃を考察し、現代世界との関係を表現する。
	期末考査 まで	二つの世界大戦 ・ ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・ アジア、アフリカ地域の民族運動 ・ 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・ 第二次世界大戦	戦間期の世界について、地域ごとの特徴を踏まえて考察する。第二次世界大戦にいたる歴史的脈絡と、その影響について理解し自分の考えを表現する。
2 学 期	中間考査 まで	冷戦と第三世界の台頭 ・ 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・ 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・ 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り ・ 石油危機と世界経済の再編	第二次世界大戦終結後の冷戦構造について理解し、現代に直結する諸問題について考察する。1970年代の歴史的意義について、事実をもととして考え、表現する。
	期末考査 まで	現在の世界 ・ 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 ・ 途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・ 地域紛争の激化と深刻化する貧困 ・ 現代文明の諸相	グローバル化とは何か、という問いについて、歴史的な事実を踏まえて考察する。また、「現代」が抱える様々な問題のきっかけについて理解し、表現する。
3 学 期	学年末考査 まで	・ 共通テスト対策 ・ 論述指導 ・ その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、受験対策の演習を通じて知識を確かなものとする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

歴史をただ覚えるのではなく、現代に繋がる過程として理解し、今日の世の中について一人ひとりが考察するきっかけになるよう授業展開していく。発問に対する応答や討論なども評価の規準になるため、主体的・能動的な態度で授業に取り組むことが求められる。また、定期考査においては世界史の基礎知識の正確な理解、それを踏まえた世界史の流れを適切な文章として自ら表現できるかどうか重要な評価規準となる。授業内で要約・振り返りを行い、探究的内容の理解を深める。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	立高生として目指すべき目標	4	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	立高生として求める標準	3	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力がある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力がある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度がある程度身に付けている。
C	立高生として初歩的段階	1	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習・小テストなど	定期テスト 小論文プリントなど	定期テスト、小論文プリントなど
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載する

科目名		地理探究(系統地理)	必修 自由選択	使用 教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新詳地理資料 2023（帝国書院） データブックオブザワールド 2025（二宮書店） 地理の整理と演習 2025（東京法令出版）
学年 学級	3 年文系(必修) 3 年理系(自由選択)	単位数	2	教科 担当	長村嘉浩

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	第 1 章 自然環境 第 2 章 資源と産業	地形、気候、生態系などの諸事象について、その空間的な規則性や傾向性、地球環境問題を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
	期末考査 まで	第 2 章 資源と産業	資源・エネルギーや農業、工業などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、資源・食料問題を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
2 学 期	中間考査 まで	第 3 章 交通・通信と観光・貿易 第 4 章 人口、村落、都市	交通・通信、観光・貿易などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、諸問題を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。 人口、村落・都市などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、人口・都市問題等を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
	期末考査 まで	第 5 章 生活文化、民族・宗教	生活文化、民族・宗教などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、民族問題等を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
3 学 期	学年末考査 まで	共通テスト対策等の演習	共通テスト・国公立 2 次・私大の過去問や対策問題を解けるようにする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法） 授業中に集中して取り組む。大学受験対象者が中心の授業であるため地理事象を理解するとともに、地図、統計、図表などを読み取る力をつけるなど、入試問題に対応できるようにする。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力	
評価規準			地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論し応用することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。	
B	立高生として求める標準	3	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。	
		2	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を概ね身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。	
C	立高生として初歩的段階	1	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を若干身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力している。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。	
評価方法			ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	

科目名		地誌		自由選択	使用教材 新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新詳地理資料 2023（帝国書院） データブックオブザワールド 2025（二宮書店） 地理の整理と演習 2025（東京法令出版）
学年 学級	3 年文系(自由選択)	単位数	2	教科 担当	長村嘉浩

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	1 節 中国 2 節 朝鮮半島 3 節 東南アジア	東アジア、東南アジアにみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
	期末考査 まで	4 節 インド 5 節 西アジアと中央アジア 6 節 北アフリカとサハラ以南アフリカ	南アジア、西アジア、中央アジア、アフリカにみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
2 学 期	中間考査 まで	7 節 EU諸国 8 節 ロシア 9 節 アメリカ合衆国	ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカにみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
	期末考査 まで	10 節 ラテンアメリカ 11 節 オセアニア 12 節 日本	ラテンアメリカ、オセアニア、日本にみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
3 学 期	学年末考査 まで	共通テスト対策等の演習	共通テスト・国公立2次・私大の過去問や対策問題を解けるようにする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

授業中に集中して取り組む。大学受験対象者が中心の授業であるため地理事象を理解するとともに、地図、統計、図表などを読み取る力をつけるなど、入試問題に対応できるようにする。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力
評価規準			いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
A	立高生として目指すべき目標	4	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論し応用することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。
B	立高生として求める標準	3	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。
		2	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を概ね身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
C	立高生として初歩的段階	1	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を若干身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力している。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
評価方法			ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する

科目名		倫理		選択必修 自由選択	使用 教材	倫理（東京書籍） 最新倫理資料集テオリア（第一学習社）
学年 学級	3 年	単位数	2	教科 担当	山田 駿	

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方 生き方 第1章 人間の心のあり方 1節 人間とは何か 2節 人間の心の働き 第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会	・「公共」の学習を振り返りながら、青年期の自己形成について考え直し、現代社会で生きていく上で、青年期に求められること、認知活動と知覚、学習の法則、記憶のプロセス、推論と問題解決について理解し考えることが出来る。 ・人間が考えることや、宗教の持つ意義を理解させ、それをもとに善く生きるとはどのような生き方かを考える。生きることについての価値を考える
	期末考査 まで	4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術	・人間が考えることや、宗教の持つ意義を理解させ、それをもとに善く生きるとはどのような生き方かを考える。生きることについての価値を考える 美を求める心や、それが人生を豊かにするものであること、芸術とは何か、芸術作品と鑑賞者の関係について、芸術家の考え方や生き方、作品を手がかりにして多面的・多角的に考察する
2 学 期	中間考査 まで	第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念	・近代の西洋思想について、経験論と合理論の特徴および科学的な思考との関連について理解する ・社会契約説と民主社会成立の関連について理解する ・社会主義や実存主義等、近現代の思想が登場した背景およびその内容について理解する
	期末考査 まで	6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり 第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想	「他者」とはどのような存在か、また、私たちはどのように「他者」とかかわるべきか、という観点から、レヴィナス、ベンヤミン、アーレント、フランクフルト学派、ウィトゲンシュタインの思想について理解し比較しながら、多面的・多角的に考察する
3 学 期	学年末考査 まで	5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚 第2編 現代の諸課題と倫理 1節 生命 2節 自然 3節 科学技術 4節 福祉 5節 文化と宗教 6節 戦争と平和	・日本の風土や文化的伝統と日本人独自の価値観との関連性について理解する ・環境破壊・生命倫理など現代の課題について理解する （第4章に関しては夏休み等に必要な応じて講習等を実施することもある）

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

倫理の授業は共通テスト受験にも対応できるよう進めていきます。受験生は多くの科目を勉強するので、倫理は授業内で理解すること、考えることを意識しましょう。特に授業内では自らの意見を述べるだけでなく、多くの人の意見を聞く機会もあると思います。他者の意見も尊重し、考える力を養っていきましょう。

ルーブリック評価				
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力
評価規準			○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報をまとめている。	○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。 ○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。
A	立高生として目指すべき目標	4	○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について深く理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を十分に深めている。 ○良識ある公民としての広い視野に立ち、主体的かつ公正な判断をしている
B	立高生として求める標準	3	○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について適切に理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切にまとめている。	○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。 ○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしようとしている。
		2	○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しようとしている。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報をまとめようとしている。	○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めようとしている。 ○主体的かつ公正な判断をしようとしている。
C	立高生として初歩的段階	1	○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察している。	○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見しようとしている。
評価方法			定期考査、振り返り確認問題	ワークシート、課題レポート、定期考査
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する
				社会的に学習に取り組む態度 社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
				○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また、そのような取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。
				○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に深く探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを十分に行おうとしている。
				○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。
				○現代の倫理的課題についての他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けようとしている
				○現代の倫理的課題についての他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。
				4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する

科目名	政治経済		必修選択 自由選択	使用 教材	『詳述 政治・経済（実教出版）』・『最新図説 政経 2024（浜島書店）』・『入試対策問題集 ステップアップ公共、政治・経済（第一学習社）』
学年 学級	3 年	単位数	2	教科 担当	野口英法

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査および期末考査まで	※年間を通じて「株式学習ゲーム」を実施する。 ○現代の国際経済 商品・資本の流れと国際収支、国際経済体制の変化、グローバル化と世界金融、地域経済統合と新興国の台頭、地球環境とエネルギー、経済協力と人間開発の課題など ○現代経済と福祉の向上 経済の停滞と再生、日本の中小企業と農業、国民の暮らし、環境保全と公害防止、労使関係と労働条件の改善など	※株式のしくみについて、興味・関心を持って正しく理解するとともに、時事問題と結びつけて考察し、主体的に売買を行うことができる。 ○現代の国際経済や現代経済と福祉の向上について、興味・関心を持って正しく理解するとともに、現実と結びつけて主体的に解決策を考察することができる。
2 学 期	中間考査および期末考査まで	○現代経済と福祉の向上 経済の停滞と再生、日本の中小企業と農業、国民の暮らし、環境保全と公害防止、労使関係と労働条件の改善など ○現代の国際政治 国際政治の特質と国際法、国際連合と国際協力、現代国際政治の動向、核兵器と軍縮、国際紛争と難民、国際政治と日本など	○現代経済と福祉の向上や現代の国際政治について、興味・関心を持って正しく理解するとともに、現実と結びつけて主体的に解決策を考察することができる。
1 2 月以降		○入試直前演習講座（全領域からの演習問題）	○総まとめ

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

メモをとる、仲間と議論する・協働するなど主体的に授業に関わり、考えながら授業に臨んで欲しいと思います。そして、授業以外の場面ではニュースや新聞などを見て、当事者意識を持ちながら社会問題に関心を持ってもらいたいと思います。その上で、疑問に思ったことを自分で調べたり、授業担当者などに聞いて解決すると力がつきます。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力	
評価規準			○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めようとしている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて高い次元で理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を高い次元で身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を高い次元で把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を高い次元で身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を高い次元で養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを高い次元で深めようとしている。	
B	立高生として求める標準	3	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて十分理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を十分身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を十分把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を十分身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を十分養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを十分深めようとしている。	
		2	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについてある程度理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	○他国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題をある程度把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力をある程度身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度をある程度養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などをある程度深めようとしている。	
C	立高生として初歩的段階	1	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて最低限理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を最低限身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を最低限把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を最低限身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を最低限養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを最低限深めようとしている。	
評価方法			定期考査、プリント提出	定期考査、プリント提出	プリント提出、出席状況	
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載する	